



北区の部屋だより

2026年10月 第206号



刊行物登録番号 7-2-179

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033 北区十条台 1-2-5 TEL03-5993-1125 令和8年10月発行



祝！100年 浮間地域の東京府編入



今からちょうど100年前。1926年（大正15）10月1日にそれまで埼玉県北足立郡横曽根村（現在の埼玉県川口市）の一部であった浮間地域が岩淵町と合併し、東京府北豊島郡岩淵町大字浮間になりました。そこで今回の「こぼれ話」では、浮間合併の経過について、『北区史通史編近現代』の内容を中心に紹介していきます。

1910年（明治43）の大洪水を契機に荒川の改修工事が本格的に始まると、岩淵水門の上流域でも第二期工事が進められ、浮間地域は新しく開削される新流路によって本村の横曽根村と分断されることになりました。また、旧流路も新河岸川と荒川をつなぐ運河（現在の新河岸川）として残されたため、浮間は四方を川に囲まれた浮島になってしまうのです。こうしたなかで浮間の住民は、新流路より川幅の狭い旧流路の対岸である岩淵町との合併を望むようになりました。

1922年（大正11）、横曽根村長と岩淵町長は連名で浮間地域の岩淵町合併を申請しました。そこに添えられた理由書によると「本村小学校二児童ヲ通学セシムルノ危険」、すなわち児童通学の安全確保が最大の問題だったようです。岩淵町はこの合併に異論はなく、1922年10月の町会（※町議会のこと）でも浮間編入を議決しますが、一方の横曽根村会（※村議会のこと）は継続審議となりました。その理由は定かではありませんが、浮間離脱に

よる地域の損失を懸念していたのかも知れません。1924年（大正13）11月8日の「東京朝日新聞」は「延期を望む浮間合併問題」との見出しで、面積150町歩におよぶ「極めて富裕」な地である浮間の合併は「岩淵町将来の発展の上から見ても慶すべきである」と報じています。これを横曽根村側から見れば「極めて富裕」な地の喪失に他なりません。事実、埼玉県は浮間地域が岩淵町へ合併されると横曽根村の維持が困難になるとして、横曽根村を川口町（現在の埼玉県川口市）に合併させた後、改めて浮間地域の問題を解決していくことを考えていました。

さて、その後も各方面での協議は続き、1925年（大正14）に岩淵町への合併がほぼ決定し、東京府、埼玉県の両知事はその内容を内務省に伝えました。そして翌1926年2月、区域の確定と村有財産の処分に岩淵町会、横曽根村会が異議なしと答申して合併が正式に決定、同年10月1日付でようやく東京府北豊島郡岩淵町大字浮間が誕生したのでした。

地域の歴史に詳しい方ならば、浮間地域はもとも埼玉県に属していて、荒川の河川改修で岩淵町と合併し、東京府に編入されたと知っている方も多いのではないかと思います。ただ、実際には、様々な協議を重ねつつ、4年もの歳月を経てようやく実現した地元住民の悲願、それが浮間地域の岩淵町合併だったのです。

【地域資料専門員 保垣 孝幸】

<https://www.syougai.metro.tokyo.lg.jp/sesaku/week.html>